

## よりよい未来社会を創造する力を育てる指導の工夫 —比較の視点を取り入れた歴史的分野「中世の日本」の学習を通して—

（実践者）萩山 知治

### 1 研究テーマ設定の理由

学習指導要領では、歴史的分野の学習の中心は「我が国の歴史の大きな流れ」の理解であり、「各時代の特色」はそのために踏まえる内容であるということが明確にされている。また、歴史的分野のまとめとして位置付けられている単元「現代の日本と世界」には、「これまでの歴史学習を踏まえ、現在と未来の日本や世界の在り方について、課題意識をもって考察、構想し、表現すること」とある。つまり、「時代の特色」を捉える学習は、歴史的分野の目標を達成するために欠かせない学習であること、また、歴史的分野における「構想」の学習は、これまでの歴史学習を踏まえた学習であることが提起されている。

そこで生徒たちには、予測困難な社会の中においても、現代社会に見られる課題を把握し、この先のよりよい社会の姿を創造する力を身に付けさせたい。そのための具体的な手立てとして、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、それを基によりよい社会の在り方について議論したりする学習展開の工夫を行うことで、未来志向の判断力や行動力の育ちにつながると考え、本研究テーマを設定した。

### 2 研究の内容及び方法

#### (1) 比較の視点を用いた追究活動

各時代の特色を明確に捉えさせるためには、比較の視点を持たせながら、追究活動に取り組ませることが大切である。例えば、中世の特色を理解するためには、前の時代と比較することで、その共通点や相違点、関連性を見いだすことができ、時代の特色がより浮き彫りになると考えられる。さらに、複数の同じ視点から時代ごとの特色を追究させることで、歴史の大きな流れの理解につながり、歴史分野のまとめに位置づけられている「構想」の学習への深い学びも期待できる。このように、その時代の特色や課題を捉えさせた上で、次の時代のよりよい社会の在り方を考察する活動を取り入れることで、未来社会を予測し構想できる力の育成につなげたい。

#### (2) ジグソー学習による深い学び

複雑化する社会の中で、生徒たちが主体的に生きていくためには、知識を取り込むだけでなく、社会の中で生きて働く知識として様々な状況に応じて使いこなすことが求められている。このような力を身に付けさせるためには、追究活動の際にジグソー学習を取り入れることが有効であると考え。ジグソー学習は、生徒同士で教え合う授業を展開し、その活動を通して自らの言葉で学んだことを表現していく活動である。つまり、その過程で理解できていないこととそうでないことが明確になるとともに、知識の表現方法や活用方法も学ぶことができ、深い学びを期待できる。このようにして、過去のできごとの理解や解釈に基づいた社会認識を深め、よりよい未来社会を創造する力の育成につなげたい。

### 3 研究の実際

#### (1) 指導の計画

本単元では、本質的な問いとして、「中世とは、どのような時代なのだろう」を設定した。これを解決させるために、単元の追究活動においては、常に前の時代と比較するという視点を持たせた。例えば、単元の導入では、「古代に見られた課題は、中世ではどのようなになるのだろう」

という問いを設定し、古代までの学習内容と比較しながら当時の社会の課題を考察させることで、中世の特色に対する関心や課題意識につなげた。また、第三次では、「室町時代は、鎌倉時代からどのように変化した時代といえるだろう」という問いを設定し、四つの視点（政治の動き、社会の様子、外国との関わり、文化の特色）に着目し、時代の変化を追究させた上で、二つの時代を総合して中世の特色を捉えさせる展開とした。この四つの視点から時代の特色を捉える手法は、古代の学習でも行っており、同じ視点からその時代の特色を追究させることで、中世の特色がより明確になるようにした。単元のまとめでは、中世の特色から見いだせる課題を考察し、「よりよい近世社会にしていくために、どのようなことが必要だろう」を設定することで、単元全体での既習内容が、次の時代の社会の在り方や課題について予測したり考察したりする上で有用であることに気付かせたいと考えた。このように、比較の視点を取り入れた追究活動を行うことで、より多面的・多角的に考察し、中世の特色を自分の言葉で表現できるようになることを目指した。

ジグソー学習については、第一次から第四次における「まとめ」の場面において、多様な立場や意見を持った仲間と協働して練り合い・高め合いの場として設定した。まず、四人班の生徒一人一人が「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の視点を一つずつ担当して追究し、自分の考えを持たせた。それを基に、班員で意見を交換させたり、それを根拠に自分の考えを再考させたりすることで、多面的・多角的な考察による思考の広がりや深まりを目指した。また、自分の考えを述べる際には、「○○○の視点から考えた場合、鎌倉時代と比べて、室町時代は△△△の時代といえると思います。そう判断したのは……だからです。」と定型文を活用することで、比較の視点を持たせながら、具体的な事例を上げて自分の立場や根拠を明確にして表現ができるようにした。さらに、根拠となった資料を提示することで、読み取りの技術の向上や、他者の読み取りを批判的に思考し、意見を述べやすくするよう配慮した。そして最後に、班や全体での話し合いを生かし、室町時代の特色を個人で文章にまとめさせた。

## (2) 指導の実際

### ア 単元名

中世の日本（第1学年）

### イ 単元目標

- 中世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けることができる。 「知識及び技能」
- 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりすることができる。「思考力、判断力、表現力等」
- 中世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 「学びに向かう力、人間性等」

### ウ 重点目標

#### <本質的な問い>

中世とは、どのような時代だろうか。

#### <永続的な理解>

中世とは、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まるとともに、東アジア世界との密接な関わりが見られ、諸産業の発達と都市や農村の変化、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれた時代である。鎌倉幕府の成立によって、武士には為政者としての能力が必要になり、「弓馬の道」だけでなく、「文武両道」を身に付けることが求められた。一

方、武家社会の動揺や転換が見られた中世後半においては、庶民たちがよりよい生活を求めて団結し、様々な工夫を取り入れることで諸産業を発達させ、自らの地位を向上させた。

## エ 評価規準と評価方法

| 知識・技能                                                                                                                                                                                                            | 思考・判断・表現                                                                                                   | 主体的に学習に取り組む態度                                         |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|
| 中世の日本の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けている。                                                                                                                             | 中世の日本に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論している。 | 中世の日本に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとする。 |
| パフォーマンス課題                                                                                                                                                                                                        |                                                                                                            | その他の評価方法                                              |
| タイムマシーンで古代の人々（平安時代の人々）が附属中学校にやって来ました。校舎が立ち並び、生徒は制服に身を包み、そして馬ではなく自転車走っている光景に驚き、なぜこのような時代になったのか説明してほしいと言われました。そこで、附属中の1年生が中世の特色を、2年生が近世と近代、3年生が現代を説明することになりました。中世の特色について、よりよく生きようとした人々の営みに着目し、B5判1枚のレポート用紙にまとめなさい。 |                                                                                                            | ○観察<br>○ワークシートへの記述<br>○ペーパーテスト                        |

## オ パフォーマンス課題のルーブリック

「よりよい社会」を実現するための資質・能力を見いだす手がかりを得られるように、既存の知識や技能を生かすパフォーマンス課題に取り組ませ、下記のようなルーブリックを用いて評価するものとした。

|   | 思考・判断・表現                                                                                                 |
|---|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の四つの視点を基に、視点相互の関わりを持たせながら、この時代に生きた人々の営みに着目し、中世の特色についてより多面的・多角的な深い考察が読み取れる。 |
| B | 「政治の動き」「社会の様子」「外国との関わり」「文化の特色」の四つの視点を基に、複数の視点からこの時代に生きた人々の営みに着目し、中世の特色について論理的に考察し、自分の言葉で表現している。          |
| C | 特色の根拠にあげられている内容と結論が一致しておらず、四つの視点から中世の特色について述べている。                                                        |

## カ 指導計画（全16時間）

| 時間 | 学習活動 | 重点                                                                                               | 記録          | 評価規準（評価方法）                                                                                                                                                                 |
|----|------|--------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 一次 | 2    | ○古代における学習成果を基に、古代の特色と課題をまとめる。                                                                    | 知           | ・古代に見られた課題について考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート）                                                                                                                                  |
| 二次 | 5    | 鎌倉時代の特色を、古代との比較の視点から捉える。<br>○武士の政治への進出<br>○農業や商工業の発達<br>○鎌倉時代の文化<br>○中世前半のまとめ ※ジグソー活動            | 知<br>思<br>態 | ○<br>・鎌倉幕府が成立した背景やその支配の広まりを理解している。（ワークシート）<br>・古代との比較を基に、鎌倉時代の特色を考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート）<br>・鎌倉時代の特色について意欲的に意見交換し、自分の考えをよりよいものに調整しようとしている。（観察）                         |
| 三次 | 7    | 室町時代の特色を、鎌倉時代との比較の視点から捉える。<br>○ユーラシアの変化<br>○武家政治の展開と東アジア<br>○民衆の成長と新たな文化の形成<br>○中世後半のまとめ ※ジグソー学習 | 知<br>思<br>態 | ○<br>・室町幕府が成立した背景や、ユーラシアの変化と東アジアとの交流を理解している。（ワークシート）<br>・鎌倉時代との比較を基に、室町時代の社会の変化の様子を考察し、その結果を言葉で表現している。（ワークシート）<br>・古代と中世の共通点や相違点について意欲的に意見交換し、自分の考えをよりよいものに調整しようとしている。（観察） |

|        |   |                                                 |            |   |                                                            |
|--------|---|-------------------------------------------------|------------|---|------------------------------------------------------------|
| 四<br>次 | 2 | ○中世に見られた課題を基に、よりよい近世の在り方を予測する。<br>※ジグソー学習       | 知<br><br>思 | ○ | ・中世に見られた課題を見だし、中世の特色やよりよい近世の社会を考察し、その結果を言葉で表現している。(ワークシート) |
|        |   | ○パフォーマンス課題に取り組み、「中世がどのような時代であるか」について自分の考えをまとめる。 |            | ○ | ・パフォーマンス評価                                                 |

### (3) 生徒の学びの実際

パフォーマンス課題に対する評価結果は、全64名中、評価Aが28人、評価Bが36人、評価Cが0人であった。資料1の生徒は、評価Aである。この生徒は、まず始めに中世の特色を端的に述べ、その根拠をナンバリングすることで、論理的に表現していた。また、課題で求められている、中世によりよく生きようとした人々のことを、この時代に勢力を持った武士と民衆であると理解していた。さらに、中世の特色を追究する上で活用した四つの視点（政治の動き、社会の様子、外国との関わり、文化の特色）を基に、視点相互の関わりに触れながら表現しており、思考力、判断力、表現力の高まりを見取ることができた。評価Bの生徒は、四つの視点を基に、武士と民衆の営みに着目しながら、根拠を具体的に説明したり、端的に分かりやすく表現したりできていた。しかし、多くの生徒が、自分が選んだ視点について、順に並べて論述しているだけであり、視点相互に関わりを持

たせた多面的・多角的な深い考察を読み取ることはできなかった。評価Cの生徒がいなかったことは、前述の研究の内容及び方法(1)・(2)を繰り返し実践したことによる一定の成果であると考えられる。ジグソー学習については、明確な役割分担のもと、積極的に級友に伝え合おうとする姿が随所に見られた。多様な考えを理解し合ったり、それを基に自分の考えをよりよいものに調整したりして、話し合いを進めていた。多様な意見を合意していく中で、考えの深まりが見られた。

## 4 成果と課題 (○成果 ●課題)

○追究過程やパフォーマンス課題の記述から、比較の視点を持たせることで、社会的事象の意味や意義を深く理解し、根拠を明確にしながら中世の特色を捉えることができていた。また、近世のよりよい社会の姿について、生徒は「武力で統一を目指す政治や社会の仕組みから、民衆の声に耳を傾けるシステムに変えるべきだ」「農民への二重支配による税負担をやめ、ゆとりある税制度にすべきだ」「朝貢形式の日明貿易は平等ではない。いずれ侵略される恐れもあるので対等な立場にすべきだ」「民衆の成長によって文化が広まったが、識字率の改善を図るための教育の制度が必要だ」などと記述していた。これらのことから、時代の特色を捉える学習を充実させることが、よりよい未来社会を創造する力の芽生えにつながるということが分かった。

**パフォーマンス課題** ( )組( )番 名前( )

「タイムマシンで古代の人々（平安時代の人々）が附属中学校にやって来ました。校舎が立ち並び、生徒は制服に身を包み、馬ではなく自転車が走っている光景に驚き、なぜこのような時代になったのか説明してほしいと言われました。そこで、附属中の1年生が中世の特色を、2年生が近世と近代、3年生が現代を説明することになりました。中世の特色について、よりよく生きようとした人々の営みに着目し、B5判1枚のレポート用紙にまとめなさい。」

中世は武士と民衆によりよく生きるために、自らの権利と力を高めた時代です。その理由は三つあります。一つ目に、政治の中心で天皇や公卿は貴族が武士に代わったことで、都の警備や刑の執行がなされて、武士は、やがて朝廷の権力争いにも参画され、主権の争いでは民衆に勢力を拡大してきました。そして、源頼朝が鎌倉幕府を、足利尊氏が室町幕府を開き、権力を握ったことで、幕府が国を治めた。二つ目に、武士の支配が定まることで、民衆によりよく生活がめづりやすくなりました。鎌倉や室町時代にかけて農民の権利が改良され、租税を減らしたり、都市では商業の仕組みを整え、商人や職人の力が花開きました。武士の支配は農民は土着、明の貿易は商人は海外で、それぞれが形を築いています。三つ目に、文化は、その時代を反映するもので、建築物、宗教、文学、絵画などは武士と民衆の成長を背景にしてものがあつた。幕府は、年々明との関わりが強く、政治や文化の面でも、大抵は明の影響を受けて、我々民衆も、その流れに乗って生きていたのです。このように、武士と民衆は、古代の仕度と同じく、自らの生活によりよく生きることを目指しながら努力を続けていたのです。

資料1 生徒のワークシート